

首都圏にある昼間定時制高校での 外国につながる生徒への取り組み

黒田協子（神奈川県立相模向陽館高校非常勤講師）

①在県外国人等特別枠生徒

（原則来日3年以内の外国籍生徒特別選抜・午前午後各10名まで）

②日本生まれ・育ちのCLD児

（日本語は表面的には問題がないが、教科教育に難しさを感じる生徒が多い）

①の生徒とプレメンや個別面談等で「個別対応がのぞましい」と判断した②の生徒が同じ教場で授業を受けることとなる。今まで2名から11名が人教室で学んでいた。（国籍は中国・フィリピン・ベトナム・タイ・スリランカ・インド・カンボジア・エチオピアなど多様な国からの生徒である）

<一般クラスの授業に参加できるようにするために>

①あらすじ再生作文⇒「読み・考え・書く」を身につける

1年生のみ対象の1時間の日本語の授業時間に自分のレベルにあった多読ライブラリーを読み再生作文を書く。1時間で1冊読み、1時間で再話作文でもいい。個人のペースで携帯使用も意味を教師に確認することもよしとしている。

②プロセスライティング⇒「内省・まとめる・書く」を身につける

「高校で1年間がんばったと」をテーマに1年生から4年生まで文集を作成。その際に教師とともに「どんなことがあったのか」「その中で自分はどう思ったのか」などを話し合い、どのような順序で書くかなどを考え、文章化していく。

③母語体験ワークショップ⇒「自己肯定感」を養う・自文化への挑戦

生徒を教師役にして、普段接している先生方に母語を直説法で教える。自分たちがL2で学ぶことの大変さやうまく伝わらないもどかさや伝わった時の感動を教員と共有し理解を広げる。また、自分の母語を見直すきっかけにもなっている。

①あらすじ再生作文

本のタイトル: ...

これほど好きでしたか?

この本は...

在県生 ↑4月頃

作文
(同-生徒によるXX) 1月頃 →

②プロセスライティング CLD生徒における作文

...

在県生における作文

<結果と考察>

在県生徒とCLD児それぞれ個々の成長・問題点もあれば、両者に共通するものもあると思われる。

在県生徒の成長・問題点

- ★母語があるので、学習ストラテジーがある
- ★日本語での表現力がふえた
- ★日本語能力の向上とともに学校との信頼関係が築けた
- ☆学校生活に慣れることが難しい
- ☆日本語はかるうじて通じることが教科学習は難しい

CLD児の成長・問題点

- ★教室にいるだけから、教室で学ぶことを感じるようになった
- ★話すだけでなく、書くことでも自己表現ができるようになった
- ☆能力を固めることが難しい
- ☆個々にあった授業展開が難しい

共通の成長・問題点

- ★自分に自信が持てるようになった
- ★自文化に誇りが持てるようになった
- ★学校での居場所ができた
- ☆狭い空間なので人間関係がうまくいかないと難しい
- ☆新出事項の定着が難しい

★ → 成長した点

☆ → 問題点、ならびに今後の課題